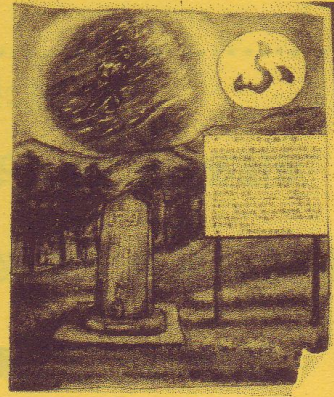


おおの郷土史かるた

⑤風雪の 峠に向かった 三四郎



・明治14年(1881)2月6日、三四郎用務で函館へ赴く。江差山道で函館からの帰路遭難

・18～19年、江差山道工事・官営事業

・20年、函館支庁長時任為基が三四郎顕彰碑(漢文)を命じて天狗岳ふもと(旧道)に建立

・昭和54年(1979)、「江さし草」に発表・文保研会長飯田吉次郎。追悼会執り行う

・55年、道路改修で石碑傾き台座補修・北電、営林署、町教委など。碑文を厚沢部町史や文保研が解説

・平成3年(1991)、説明板設置・大野町教委

・9年、石碑拓本採り・文保研

・10年、漢文板設置・町教委

・11年、「おおの郷土史かるた」に載る・文保研作成

(大野水彩画サークル、渡島支庁、大野町支援)

・18年、「新大野町史」掲載(碑漢文及び解説)

*この間碑の周辺はダム工事と共に整備される。

*合田一道氏、館和夫氏、永田敏雄氏、宮下正司氏が書、新聞等に記す。また新聞、おおの広報などにも紹介される。

碑文は最後に
「職務に熱心で立
派な人物である。命
知らずのものは
大いに違う。この岳
(天狗岳)を住まい
とする。辺りは険し
い岩だらけだ。後世
何時までもここを
通る人は誰もがそ
の行跡に感心する
であらう」
と締めくくってい
る。

遭難碑

夏草刈って

参る坂